

常任委員長報告

各常任委員会に付託された議案等の審査結果について、それぞれの常任委員長が報告しました。各常任委員長報告における委員の意見や要望の主なものは次のとおりです。

総務委員会

- *「世界に輝く静岡」の実現のために、3次総、総合戦略を始めとする各種事業を局間連携により着実に推進すること。
- ***防災対策**について、引き続き万全な対策を進めるとともに、「津波リスク分析シミュレーション」をより実効性ある津波対策につなげること。また、教育委員会と連携した防災教育事業に取り組み、子どもたちの安全確保に努めること。
- ***静岡市・旧蒲原町合併10周年記念式典事業**を住民に対し、広く周知すること。
- ***人口減少対策事業**として、新規の「新幹線通学資金貸与事業」に加え、市内大学との横断的な組織づくりや学生と企業とのマッチングなど市内就職への支援の充実、市民への情報発信の強化に努めること。
- ***静岡市及び焼津市における連携中枢都市圏形成に係る連携**については、焼津市側の意向にも配慮した上で進めること。
- *今後見込まれる**消費税増税の影響を最小限に留める**ため、早期設計と早期発注に注力し、繰越の縮減に努めること。また、地域経済活性化の観点からも小規模企業への発注を増やす対策に努めること。
- ***滞納整理、収納対策**について、納税者の生活実態に根差したきめ細かい対応を求める。
- ***18歳選挙権**に向けて、啓発活動に対する検証をするとともに、高齢化の観点も含め、投票所のあり方等の検討を求める。

市民環境教育委員会

- ***森下小学校新校舎建築工事設計業務委託**における事務事業事故の再発防止に全力で取り組むこと。また、新校舎の完成が遅れることになるが、学校関係者や保護者などにきめ細かく説明を行うなど、誠意をもって対応すること。
- *地域住民と向き合って、行政の考えを伝えとるとともに、住民の声にも耳を傾けて**地域コミュニティ**の充実に取り組むこと。
- *施設の維持管理に多額のコストを要する**清掃工場**については、長寿命化を図るとともに、有害物質排出等のトラブルが発生することのないよう万全を期すこと。
- ***清掃工場で発電した電気の売り払い先業者の選定**に当たっては、リスク把握など事業全体の管理を徹底したうえで進めること。
- ***南アルプスユネスコエコパークの自然環境を守る**ため、環境破壊の懸念が払拭できない状況では着工させないという強い姿勢で、中央新幹線建設事業者との工事協定や環境保全協定の締結等を検討すること。
- ***コミュニティ・スクール研究推進事業**や**学校応援団推進事業**については、学校と市民局、地域とが十分な情報共有を行い、連携して実施すること。
- ***校舎等改築・補修事業**や**トイレリフレッシュ事業**、**校務支援システム整備事業**については、スケジュール管理を徹底し、遅滞なく進めること。
- ***子どもの貧困問題**は学校だけでは解決できないため、スクールソーシャルワーカーの増員やネットワークの拡大により、総合的に支援の充実を図ること。

厚生委員会

- ***静岡型地域包括ケアシステムの構築**に向け、28年度は、推進本部が組織され、今後の方向性を定める非常に重要な年になるが、他部局や医師会、介護事業者とも連携し、他都市の模範になるようなものを目指すこと。
- ***障害者就労施設**からの市の調達実績が増えてきたことを評価する。今後は安定した仕事の供給につなげていただきたい。
- ***待機児童の解消**に向けた認定こども園への移行などに関し、私立幼稚園に丁寧な説明を行うこと。
- ***ひきこもり対策推進事業**について、「静岡市ひきこもり地域支援センターDan Danしずおか」の開設から1年となるが、家庭訪問などの施設外における活動の強化と、支援スタッフの裾野を広げるなど更なる拡充を求める。
- ***子どもの貧困対策推進事業**について、学習支援のニーズが非常に多く、拡充したものの、まだ、多くの子どもに支援が必要であると考えられるため、各種団体とも連携しながら、実態の把握と更なる支援の拡充を図ること。

企業消防委員会

- ***静岡病院の地方独立行政法人への移行**に当たっては、万全の準備の上、市民の期待に応えるよう運営し、今後の病院のあり方の手本となる病院経営を行うこと。
- ***清水病院の運営**について、医師・看護師等の確保や、病棟の改修、医療機器の整備など、引き続き、経営改善に取り組むこと。
- ***消防団員確保対策事業**について、地域社会や民間企業、学校などと連携して幅広い取組を継続するとともに、女性消防団員の入団促進に向けて、啓発活動と併せて、受け入れる消防団側の意識改革も行うこと。
- *28年度から、3市2町での**消防救急が広域化**するが、引き続き、様々なケースを想定し、万全の体制で市民の安全・安心を守っていくこと。
- ***上下水道局の業務の専門性や技術の継承**などを考慮して、職員採用を含む局内の人事や、契約事務など、本市の他の行政組織から独立した体制を構築する必要性も視野に、**今後の組織のあり方**を検討すること。
- ***上下水道施設**は、日常生活を支える一連のライフラインであるため、耐震化・浸水対策を計画的に進めること。また、鉛製給水管の更新については、計画を前倒して実施すること。
- ***上下水道事業における広報**について、静岡市水のキャラクター「しずみい」を生かし、コーポレートメッセージやロゴマークなど一連のイメージで結びつけ、戦略的かつ効果的なPRに努めること。

観光文化経済委員会

- ***朝鮮通信使の韓国釜山市や台北マラソンの台湾台北市**など、文化、スポーツ、経済など様々な面で新たに関わりが深くなっている都市も多いため、**姉妹都市**の見直しや交流のあり方について検討すること。
- *見える化による観光資源化を目指している**駿府城天守台の発掘調査**については、メディアからの注目が集まるような見せ方や、訪れた人が飽きない仕掛け等を工夫して進めること。
- ***日韓ワールドカップにおけるロシアチームのキャンプ誘致がレニングラード動物園からのロッシー無償貸与につながったこと**を踏まえ、**東京オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ宿泊等**について、将来の国際交流も見据えた戦略的な誘致活動を推進すること。
- *本会議でもエスパルスのユニホームを着て応援をしたが、**ホームタウン事業の推進**に全庁を挙げて取り組むこと。
- ***企業立地にかかる各種事業**については、新規、拡充の助成メニュー等を企業に周知するとともに、関連部局と連携し、企業立地用地の確保や秩序ある土地開発を行うこと。
- ***清水港ウォーターフロント賑わい創出事業**について、中部横断道の開通に合わせて、更なる賑わいの創出や回遊性の向上を図り、清水港の利用促進と海づり公園の代替施設再整備を早期に推進すること。
- ***青年就農の推進や担い手の育成支援**について、新規就農者が安定した収入を得るための継続的な支援と、法人への助成や農地の集約、大規模化を促進する施策を推進すること。
- ***農業委員会制度が改正**されることにより、農地利用の高度化や各地域にあった最適な農業経営が図られるよう努めること。

都市建設委員会

- ***木造住宅耐震補強事業費助成**について、市内には依然として耐震補強をしなければならない木造住宅が多くあるので、耐震補強が必要な住宅への対応はきめ細かく行うこと。
- ***清水都心における、LRT等の新たな公共交通機関の検討**と合わせて、自転車を持ったまま電車に乗れるサイクルトレインや、路線バスへの自転車の積載など、既存の公共交通機関の有効活用も検討すること。
- ***紺屋町地区のモール化**については、関係者と十分な協議を行い、静岡の顔としてのまちなみ整備や、にぎわいづくりに努めること。
- ***道路の安全確保**について、変則的な交差点では重大事故が発生するおそれが高いという指摘や、幹線道路以外の車両通行の多い道路で破損が目立つという地域住民の声があるため、交差点や道路の改良、補修などを確実にを行うこと。
- ***巴川流域の治水事業の推進**により地域の治水安全性が向上している。今後とも、県と市が連携して効果的な対策を進めること。

常任委員会が変わりました

市の組織機構改正及び市立静岡病院の独立行政法人化に伴い、平成28年4月1日から常任委員会の所管事項が一部変わりました。

委員会名	所管事項
総務委員会	総務局、企画局、財政局、他の常任委員会の所管に属しない事項
市民環境教育委員会	市民局、区役所、環境局、教育委員会の所管に関する事項
厚生委員会	保健福祉長寿局、子ども未来局の所管に関する事項
観光文化経済委員会	観光交流文化局、経済局、農業委員会の所管に関する事項
都市建設委員会	都市局、建設局の所管に関する事項
企業消防委員会	上下水道局、消防局の所管に関する事項

会議を傍聴してみませんか

市議会の会議は簡単な手続きで、どなたでも傍聴していただくことができます。本会議は静岡庁舎本館4階傍聴席にて開催時刻の30分前から受付をしていますので、ぜひお越しください。

次回定例会の予定は8面に掲載しています。

その他詳しくは調査法制課(☎221-1481)までお問い合わせください。

平成27年度 本会議傍聴者数

本会議傍聴者数	4月臨時会	6月定例会	9月定例会	11月定例会	2月定例会
	2人	149人	142人	95人	309人